

日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞（体力科学）：

運動を中止した高齢者の身体機能，身体活動量及び認知機能特性
－福岡那珂川研究－

古瀬 裕次郎^{1,2}，池永 昌弘²，山田 陽介³，武田 典子⁴，森村 和浩⁵，木村 みさか^{2,6}，
清永 明^{1,2}，檜垣 靖樹^{1,2}，田中 宏暁^{1,2}；the Nakagawa Study Group

¹福岡大学スポーツ科学部，²福岡大学基盤研究機関身体活動研究所，
³国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所，⁴工学院大学教育推進機構，
⁵就実大学教育学部教育心理学科，⁶京都先端科学大学総合研究所

学会賞（JPFSM）：

**Effects of combined therapy of ACE inhibitor and exercise on the development of
diabetic nephropathy in Otsuka Long-Evans Tokushima fatty rats**

Shinichiro Aoyama¹，Daisuke Shindo²，Junichi Otsuka³，Eriko Matsuo⁴，
Shigeru Matsubara⁴ and Masato Suzuki⁵

¹Kokushikan University, School of Asia 21,
²Laboratory of Health and Sports Science, Department of Pharmacy, Nihon University,
³Department of Pharmacy, Jikei University Kashiwa Hospital,
⁴College of Sports Sciences, Nihon University, ⁵Jikei University School of Medicine

奨励賞：

**Effects of acetate administration on endurance training-induced metabolic
adaptations in mice fed high fat diet**

Kohei Seike¹，Mai Banjo¹，Suguru Nakano¹，Yumiko Takahashi¹，Kenya Takahashi¹，
Shoko Abe² and Hideo Hatta¹

¹Department of Sports Sciences, The University of Tokyo, ²Egao Health Laboratory

第34回日本体力医学会学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 前田 清 司

学会賞を受賞されました先生方におかれましては、誠にありがとうございます。さて、日本体力医学会学会賞は、毎年、「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)」に公表された論文の中から、学会賞と奨励賞に相応しい論文を選定しております。学会賞は「体力科学」と「JPFSM」に公表された学会員が筆頭著者の論文からそれぞれ一編、奨励賞は両誌に公表された論文の中から若手学会員が筆頭著者の論文を一編選定しております。今回は、昨年に「体力科学」と「JPFSM」に公表された論文から高い評価を受けた論文一編ずつが学会賞、若手学会員が筆頭著者の論文の中から高い評価を得た一編が奨励賞として選定されました。いずれの論文も学会賞選考委員から極めて高い評価を受けた論文になります。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、第75回日本体力医学会大会（鹿児島大会）および第76回日本体力医学会大会（三重大会）はオンライン開催となりました。このことを受け、今回の受賞論文の表彰および講演は、来年の第77回日本体力医学会大会（栃木大会）にて行われる予定です。栃木大会では、第33回、第34回、第35回日本体力医学会学会賞の表彰と講演を行う予定であり、例年にない盛大な表彰式になることを期待しております。

日本体力医学会は、国内外における体力ならびにスポーツ医科学の研究の進歩、発展を促進させる使命を担っています。このことを実現する上で、学会機関誌である「体力科学」と「JPFSM」は非常に重要な役割を果たしています。学会員の先生方におかれましては、先生方の素晴らしい研究成果を「体力科学」あるいは「JPFSM」に積極的にご投稿いただき、国内外の体力ならびにスポーツ医科学の研究の推進・発展に寄与いただければ幸いです。学会員の先生方にとって、本学会賞が憧れとなり続けることを祈念いたします。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2021年5月）議事録

日時：2021年5月21日（金）午後5時30分～7時15分

場所：ZoomによるWeb会議

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長， 碓井外幸副理事長，
武政 徹常務理事， 赤間高雄， 井福裕俊，
太田 真， 大野 誠， 栗原 敏， 後藤勝正，
小山勝弘， 下光輝一， 須田和裕， 須永美歌子，
竹森 重， 田中喜代次， 中里浩一， 永富良一，
成田和穂， 前田清司， 宮内 卓， 宮川俊平，
和気秀文各理事， 井上 茂， 清田 寛各監事，
加藤 公第76回大会長，
小橋 元第77回大会長

欠席者：西平賀昭副理事長，
新開省二， 浜岡隆文各理事，
小林康孝， 定本朋子各監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には，自動的に承認されることにした。

2. 令和3年度決算見込みについて（宮川財務委員長）

資料に基づき，令和3年度決算見込みについて，報告された。収入51,957,546円は見込みであるが，予定通りの収入となれば，令和3年度決算見込の収支差額は，899,984円の黒字となる旨，説明された。

3. 令和4年度予算案について

（宮川財務委員長）（鈴木理事長）

資料に基づき，令和4年度予算案について報告された。令和4年度予算案の収支差額は，2,190,500円の赤字予定であるが，会費収入が想定より増えれば，赤字は縮小することが見込まれる旨，加えられた。

また，鈴木理事長より，別紙の資料に基づき，この赤字予算について，以下の説明と提案があった。

新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により，会費納入の失念，退会者の増加，Web開催となった第75回（鹿児島）大会での新規入会者および演題発表者数の減少により，赤字予算となったことが推察される。しかし，必然性の低い事業の廃止や，シニア会員制度の導入等により，正味財産は増加傾向にある。健康科学の研究に従事する大学院生は減少していないので，この正味財産を使い，学会賞以外の新たな賞を設置する等で，その大学院生を含めた新規入会者の増加を図ることを提案する。

この提案について，承認され，新規入会者を増やす企画を立案することとなった。

4. 令和4年度事業計画案について（鈴木理事長）

資料に基づき，令和4年度事業計画案についての報告があった。審議の結果，承認され，9月の社員総会に諮ることになった。

5. 第34回日本体力医学会賞選考委員会審議結果につ

いて（前田学会賞選考委員長）

資料に基づき，4月16日にZoomによるWeb会議での審議にて開催された学会賞選考委員会において，学会賞【体力科学】，学会賞【JPFSM】および【奨励賞】候補の3件を選考したことが報告され，承認された。

【学会賞（体力科学）】

69巻-1号-⑤（体力科学）

古瀬裕次郎，池永昌弘，山田陽介，武田典子，森村和浩，木村みさか，清永 明，檜垣靖樹，田中宏暁：the Nakagawa Study Group

運転を中止した高齢者の身体機能，身体活動量及び認知機能特性 - 福岡那珂川研究 -

【学会賞（JPFSM）】

9巻-5号-5

Shinichiro Aoyama, Daisuke Shindo, Junichi Otsuka, Eriko Matsuo, Shigeru Matsubara and Masato Suzuki

Effects of combined therapy of ACE inhibitor and exercise on the development of diabetic nephropathy in Otsuka Long-Evans Tokushima fatty rats

【奨励賞】

9巻-4号-6（JPFSM）

Kohei Seike, Mai Banjo, Suguru Nakano, Yumiko Takahashi, Kenya Takahashi, Shoko Abe and Hideo Hatta

Effects of acetate administration on endurance training-induced metabolic adaptations in mice fed high fat diet

尚，例年の年次学会大会時に“日本体力医学会学会賞受賞論文表彰および講演”が企画されているが，今年度の第76回（三重）大会にて，前年度の受賞者を含め，1時間枠での学会賞受賞論文表彰および講演を行うこととなった。

6. 編集委員会 DOAJ (Directory of Open Access Journals) へのバックナンバーのメタデータアップロードについて（後藤編集委員長）

資料に基づき，DOAJ (Directory of Open Access Journals) へのバックナンバーのメタデータのアップロードの提案と，費用について説明され，審議の結果，承認された。

・バックナンバーのアップロード（JPFSM誌 Vol. 1～Vol. 9まで）

・バックナンバー（462編）1編当たりの希望単価：550円（税込）（254,100円）

7. その他

1) 会計収支科目追加による予算書の改訂について（碓井副理事長）

これまでの予算書の構成を簡潔にするため，次年度から，地方会開催に関わる収支の勘定科目を新たに追加し，本体収支と地方会収支を分けて作成することが提案され，審議の結果，承認された。

2) 入会申込項目の改訂について（碓井副理事長）

学会ホームページに掲載している入会申込書およびオンラインでの入会登録項目に、性別を選択する項目があり、近年のジェンダー問題を鑑み、この項目をどのように処置すべきか、再検討をすることが提案された。これについて、男女共同参画推進委員長の須永理事と評議員選考委員長の犬野理事から、正会員および評議員の男女比率を算出するため、必要項目であることから、回答を必須ではなく、任意とすることが提案され、審議の結果、承認された。

また、評議員の推薦項目については、オンラインでの入会登録項目と同様に、捺印を省略することが提案され、審議の結果、承認された。

3) 甲信越3県の地方会開催について(碓井副理事長)

既存の地方会に属していない山梨県、長野県、新潟県について、関東地方会との合同で、地方会大会を開催することが提案された。これについて、全国地方会実行委員長の竹森理事より、この3県を関東地方会の例えば分科会として設けることも考えて働きかけることを検討していることが説明された。

また、開催方法については、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、オンラインで行うことを検討することとなった。

4) 第76回(三重)大会の特別予算について(碓井副理事長)

第76回(三重)大会の現在の参加収入および広告収入状況を鑑み、抄録集の発刊費用等の資金の逼迫が懸念されるため、特別予算として200万円を設けることが提案され、審議の結果、承認された。

5) 日本医学会への活動報告の提出について(鈴木理事長)

日本医学会から、各加盟分科会の活動状況を把握するため、過去5年間の活動内容と日本医学会への期待と要望についての提出依頼があった。これについて、各委員長は期日までに各委員会の活動内容を事務局へ提出してもらう旨、説明された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会(後藤編集委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

(1) 「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況<投稿状況>

(2020年9月1日～2021年4月25日)

「JPFMSM」誌：新規投稿32編(内海外6編)

※前年同期間：新規投稿31編(内海外5編)

4/25現在、審査中9編(採択11編、不採択11編、採択後原稿取下げ1編)

※受付不可10編(投稿規定に沿わない等で原稿

返却。海外10編)

「体力科学」誌：新規投稿32編

※前年同期間：新規投稿34編

(依頼総説1編、依頼教育講座3編含む)

4/25現在、審査中10編(採択7編、不採択14編、原稿取下げ1編)

<発行予定>

「JPFMSM」誌

○Vol. 10, No. 3 (2021年5月25日発行)

掲載論文6編

○Vol. 10, No. 4 (2021年7月25日発行)

掲載論文7編

○Vol. 10, No. 5 (2021年9月25日発行)

掲載論文8編

「体力科学」誌

○Vol. 70, No. 3 (2021年6月1日発行)

掲載論文6編

○Vol. 70, No. 4 (2021年8月1日発行)

4/25現在、掲載論文なし

2) 渉外委員会(永富渉外委員長)

海外における各大会等の報告と進捗状況が報告された。

3) 倫理委員会(成田倫理委員長)

演題応募における倫理的手続きについて、第77回(栃木)大会の一般演題の演者にアンケートを行う予定であることが報告された。

2. 第76回(三重)大会の進捗状況(加藤第76回大会長)

資料に基づき、大会の準備状況等について報告された。

会場：三重県総合文化センター

会期：2021年9月17日(金)～19日(日)

テーマ：「知の継承と共有」

尚、全国の新型コロナウイルスの感染状況と、参加者のワクチン接種率の推移により、オンラインでの開催を検討している旨、報告された。

3. 第77回(栃木)大会の進捗状況(小橋第77回大会長)

資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会期：2022年9月21日(水)～23日(金)

会場：栃木県総合文化センター

4. その他

1) 第75回(鹿児島)大会の監査結果について

(武政総務委員長)

資料に基づき、第75回(鹿児島)大会の会計について、公認会計士による監査が完了した旨、報告された。

日本女子体育大学附属基礎体力研究所 第32回公開研究フォーラム 「トレーニング再考ーコロナ禍に学ぶ免疫とコンディショニングー」

日 時：2021年12月4日(土) 13:00～

場 所：オンライン開催

参加方法：下記URL, またはQRコードより参加申込を行なってください(参加費無料)。

オンライン視聴に伴う情報は, 参加フォームにご登録いただいたメールアドレス宛に, 随時ご連絡いたします。



【URL】 <https://forms.gle/mRjf3oLbvnxz0VNC7>

プログラム

※新型コロナウイルスの感染状況に伴い, 実施形式やプログラムに変更が生じる場合があります。

-
- 13:00 開会挨拶
 - 13:10～ セッションⅠ <講 演> 「コロナ禍のトレーニングから得られた競技力向上へのヒント」
大橋 祐二 (日本女子体育大学)
 - 13:45～ セッションⅡ <基礎体力研究所の成果>研究発表
 - 14:40～ セッションⅢ <基調講演> 「免疫機能に着目したアスリートのコンディショニング」
清水 和弘 (国立スポーツ科学センター)
 - 15:40～ セッションⅣ <総合討論> 演者 清水 和弘 (国立スポーツ科学センター)
大橋 祐二 (日本女子体育大学)
座長 星川 佳広 (日本女子体育大学附属基礎体力研究所)
-

お問い合わせ先：〒157-8565 東京都世田谷区北烏山8-19-1

日本女子体育大学附属基礎体力研究所

【E-mail】 kisotai2021@gmail.com

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 2022年度研究助成の公募について

1. 助成の対象

<一般公募研究>

単年度（2022年4月1日～2023年3月31日）

- ・理工学分野：製塩プロセスの進歩・革新につながる研究
- ・医学分野：食塩を中心とした塩類の生理作用，健康に及ぼす影響に関する研究
- ・食品科学分野：食品の加工・調理・保存及び食品栄養における食塩を中心とした塩類の役割に関する研究

<プロジェクト研究>

3年間（2022年4月1日～2025年3月31日）

- ・医学分野：研究テーマを「適切な塩分摂取で挑む超高齢社会」とし，下記のサブテーマ毎に募集する。
（サブテーマ1）塩分バランスの変化とフレイルに関する研究
（サブテーマ2）塩分摂取と歯・口腔内の健康および摂食・嚥下機能に関する研究
（サブテーマ3）塩分バランスと自律神経制御・腎機能に関する研究

2. 募集件数および研究助成金額

<一般公募研究>

- ・理工学分野：18件程度
- ・医学分野：16件程度
- ・食品科学分野：9件程度
- * 研究助成金額：1件当たり120万円以下

<プロジェクト研究>

- ・医学分野：5件程度

* 初年度助成金額：1件当たり100～200万円

3. 応募資格：日本国内の大学，公的研究機関等で研究に携わる人（学生・研究生等を除きます）。特に，若手研究者の積極的な応募を期待。
4. 応募方法：財団のウェブサイトから2022年度研究助成応募要領（Microsoft Word）をダウンロードし，応募要領に基づいて所定の書式に記入のうえ，書面により提出。
5. 応募期間：2021年10月25日（月）～2021年11月25日（木）まで（締切日財団必着）
6. 提出先：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3階 電話：03-3497-5711
URL：<https://www.saltscience.or.jp>
7. 選考結果の通知：財団の研究運営審議会による審査・選考等を経て，3月に応募者へ書面で通知。

編 集 後 記

体力科学70巻5号を会員の皆様にお届けします。本号には、原著論文5編、JPFISM (Vol. 10, No. 5 (2021), Regular Article 7編, Short Communication 1編)の抄録で構成されており、前号よりも掲載論文数が若干ですが増加致しました。

コロナ禍の下、多くの大学や研究機関において、ヒトを対象とした実験の実施、対面での研究指導の実施が制限されていることと思います。そのような中で原稿を執筆し、本号に投稿をしてくださりました著者の方々に心から敬意と感謝をお伝えしたいと思います。

私がこの編集後記を執筆している現在、東京の新国立競技場を始めとする各会場にて、コロナ禍で一年延期となった2020東京パラリンピックが開催されており、連日、日本代表選手の活躍のニュースを伝え聞いております。

1964年に開催された前回の東京オリンピックは、私が生まれる前に開催された大会であるため、直接、大会を見たり、それに向けた社会の流れを感じることは出来ませんでした。しかし、体力科学や体育科学を学んだ学生時代に、1964東京オリンピックに向けて競技力向上や国民の健康や体力向上に向けた研究が、日本体育協会や各競技団体、大学の研究室で精力的に行われたという話を恩師の先生方からよく聞かせて頂きました。

東京オリンピックも含めた2020東京大会は、日本代表選手の活躍がリオ以前の大会以上に目立っております。その背景には、東京開催が決定してから選手の練習環境や活動に対する財政的な支援がこれまで以上になされたことはもちろんですが、それ以外にも、学会員の先生方

を始めとする体力科学研究者の方々の取り組みが少なからず貢献したのだらうと感じております。たとえば、競技力向上のためのスポーツトレーニング理論の研究、質の高い練習を可能としたり熱中症を予防するための暑熱対策をしたりする研究、障害者アスリートのパフォーマンス向上のための研究などはもちろんですが、一見、競技スポーツとは直接関係の深くなさそうな動物実験、細胞や遺伝子を対象とした基礎研究などです。

本号に掲載された原著論文の中身を見ると、運動後の筋硬度の変化を観察した研究(井上先生)、ストレッチによる一過性の柔軟性の向上の学年比較をした研究(宿谷先生)、呼吸努力が膝伸力発揮の変動に及ぼす影響を明らかにした研究(白川先生)、足関節自動運動の静脈血流速度の要因を分析した研究(藤原先生)、そして動脈ステイフネスと有酸素運動能力に関する研究(吉川先生)が掲載されております。これらのタイトルをみると、競技力や体力の向上を直接想像することが難しそうなものも有ったりしますが、実は広い意味で、あるいは間接的にアスリートのトレーニングや健康の維持増進に関連する理論となるものであると信じております。きっと未来のアスリートの競技力、日本国民の体力増進、そしてこれらの研究の更なる発展につながるに違いありません。そのようなことを思いながら、掲載論文をお読み頂ければ幸いです。

柳谷登志雄

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol. 70, No. 5

体 力 科 学 第 70 巻 第 5 号

令和 3 年 9 月 25 日 印 刷
令和 3 年 10 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

後 藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社